

会 議 要 旨

会議の名称	令和7年度第1回川越市立図書館協議会	
開催日時	令和7年7月24日(木) 午後2時00分 開会 午後4時15分 閉会	
開催場所	中央図書館 3階 展示室	
会長氏名	会長 檜村 雅章	
出席者(委員)氏名 (人数)	副会長 盛田 隆二 委員 林 志信 熊倉 秀幸 浅野 聡 飯田 敦 吉岡 一美 内藤 俊史 若林 英雄 池内 淳 廣川 康之 佐藤 由来 佐藤 葉子 木幡 剛 (13名)	
欠席者(委員)氏名(人数)	武藤 寛史 (1名)	
事務局職員職氏名	中央図書館：羽生田館長 柳澤副館長 鈴木副主幹 吉澤副主幹 西図書館：駒井館長 川越駅東口図書館：島崎館長 高階図書館：原田館長 教育指導課：中野指導主事	
会議次第	1 開 会 2 会長あいさつ 3 中央図書館長あいさつ 4 職員紹介 5 議題・報告 (1) 令和6年度事業報告について (2) 令和7年度事業計画について (3) 川越市立図書館運営方針の改定について (4) 第四次川越市子ども読書活動推進計画の改定について (5) その他 6 閉 会	
配布資料	次第 資料1 令和6年度 川越市立図書館 主要事業報告 資料2 令和6年度 事業報告書 資料3 令和7年度 予算の状況 資料4 令和7年度 川越市立図書館事業計画 資料5 川越市立図書館運営方針 資料6 「川越市立図書館運営方針」の改定について 資料7 第四次川越市子ども読書活動推進計画	

	<p>資料 8 「第四次川越市子ども読書活動推進計画」の改定について</p> <p>資料 9 川越市立図書館運営方針・川越市子ども読書活動推進計画改定のスケジュール（案）</p> <p>資料 10 川越市立図書館アンケート 入間地区社会教育協議会発行の広報誌さわらび第 57 号</p>
--	---

議 事 の 経 過

【決定事項】

- (1) 資料費の予算削減を非常に憂慮しており、事務局は予算確保に努めること。
- (2) 「第四次川越市子ども読書活動推進計画の改定」は「第五次川越市子ども読書活動推進計画の策定」として進める。
- (3) 次期川越市教育振興基本計画における各施策の指標案を次回協議会までに事務局から提示すること。

【議題・報告】**(1) 令和6年度事業報告について**

資料1又は資料2に基づき各館から説明を行った。

〈質疑応答〉

委員: 事業報告に表しきれないようなことをひとつお伝えしたい。昨年度の南公民館主催の歴史講座に参加し、川越駅東口図書館の職員が資料の探し方を熱心に教えてくれた。今年度の歴史講座での調べものにも図書館を活用したいと考えている。こういった連携を深く進めて頂きたいことと、せっかくの取組が資料に出てこないのが仕方ないとはいえ残念だと思った。

事務局: 南公民館の講座については、事業報告書の23ページ上から3段目に、職員を派遣した実績として掲載している。主要な事業として図書館主催のものを中心に説明したが、事業報告書には他課との連携事業についても掲載しているので、内容について御質問があれば随時承りたい。

会長: 改めて、人と人との触れ合いの中で物事を学んだりすることが重要だと感じられる場面が最近多くなっている。そんな中、こうした活動を図書館が行っていることを知らない人がまだ多くいるのではないか。かつて図書館では単に本を借りて返していたが、先程の報告にあったものはいずれも体験が伴い、物質としての本の良さを楽しむようなことで、オンラインではできないことである。このような貴重な活動を行っていることをより広めてほしい。また、情報を得ることと体験として楽しむことの区別が出てきており、図書館が体験の場となっていると感じる。

委員: 電子書籍サービスの登録者数17,891人に対して、実利用者数は1,338人で利用率が7.5%である。一方、電子書籍サービスではない図書館の利用率を見ると、登録者に対して50%以上である。電子書籍に関しては登録を別途行うと思うが、それに対して利用率が7.5%というのはなぜか。

事務局: 電子書籍サービスについては、開始当初から図書館利用カードの新規登録などの際に、電子書籍利用登録の案内を行っているためかと思われる。

委員: 電子書籍サービスを使わなくても登録される場合があることがわかった。もう1点、電子書籍サービスを導入している日本国内の公共図書館はいずれも利用が多くない。しかし、可能であれば自治体内の小中学校の生徒達

議 事 の 経 過

にアカウントを配布すると、朝読の時間等、劇的に利用量が伸びるのではないかと。また、電子書籍でよく読まれているのは、1位は、昨年最も売れた、『変な家2』だが、2位から30位ぐらいまで名探偵コナンの学習漫画である。つまり、今、日本の公共図書館の電子書籍サービスを利用するのはこどもたちである。川越市もこどもたちに対する政策に非常に力を入れている。もし可能なら学校図書館や学校と連携してはどうか。

事務局：利用率が少ない理由は、電子書籍を利用しようと登録したものの、検索したところ読みたいものがない、権利の関係上どんなものでも読める状況ではまだないことも要因のひとつであると考えている。

委員：電子書籍について、令和6年度は354冊購入し、購入費は144万円。これは単純に割ると1冊あたり4,068円になるが、紙の本に比べると高い。以前確認したところ、電子書籍は個別の版元と契約するのではなく、ある1つの配信業者と契約していると聞いた。どのような契約なのか、簡単な話を聞きたい。というのは、ある本が1冊4,000円だとして、何人が借りてもこの本は4,000円というような契約なのか。費用対効果的なところを知りたい。

事務局：電子書籍は1冊4,000円から6,000円、高額なもので1万数千円のものもある。購入の際の利用条件として、期間（2年間等）や回数（24回等）が定められており、条件が到来した段階でコンテンツが消えるものと、ライセンス買切り型として、コンテンツを何回でも利用できるなど、様々なパターンがある。

委員：そうすると、2年間又は24回で終わりとか、さらにまた更新するといった様々なパターンがあるということで、購入条件の費用対効果については、出せないということか。

事務局：仰るとおり、一概にどの購入条件であれば効果が上がったと言えるかというのは、分析が難しい。

委員：一般的に電子書籍の価格は紙の本の約3倍であり財産になるわけではないので、紙の本と比べて高いという印象を受けがちだが、基本的に来館する必要がなく、図書館が遠い人は交通費をかけている場合があり、来館にかかる時間等の機会費用（来館することと引き換えに必要な時間や交通費）が考えられる。また、延滞者に対する督促のコストについて、実際に費用としては算出しづらいが、時給に換算すればもう1冊買った方がいい場合もある。こうした機会費用や職員の時給換算を考えると3倍は高いわけではない。もうひとつ、電子書籍というのはメディアの利用の仕方により、年代差がある。どこに図書館を利用したい人や読書をしたい人がいて、どのような方々がどのようなメディアを利用しているかということも考えて選書を行う必要がある。例えば、こどものための読み放題のみを導入する自治体もある。図書館に来ない人でも「出向く」形が取れないが電子なら読みたいと思う人など、潜在的需要はきちんとある。図書館にいと、

議 事 の 経 過

図書館に来る方の事情はよくわかるが、来ない方の事情はわからない。これから少しずつ考えて頂きたい。

事務局：仰る通り、来ない方への視点を向けるべきと指摘されたことがある。児童生徒に対するアカウントの配布については検討段階で中断している。御指導頂いたことも含めて検討したい。

委員：延滞督促にコストがかかっていることを初めて知った。こどもが熱を出すなどして返しに行けないことは多々ある。小学生も今は多忙で習い事がほぼ毎日入っているこどももいるので、そういう中で、図書館に出向くことが難しい実態もある。今の話にあったように、全員にそのようなアカウントがあればいいというのが親目線からの感想である。また、学校から持ち帰るパソコンを使う機会は、配信される宿題だけという現状なので、自由に自分で借りた本が読めると、パソコンを活用できると思う。小学校でも図書館に行く時間はあるが、機会は限られる。こうした状況を踏まえると、小学生に向けた電子書籍があるとよい、親としても助かると思った。

会長：電子書籍について議論が深まってきたが、いろんな側面を持っており、色々考えるべきことが多くある。頂いた御意見を反映させて、今後の活動に活かして頂きたい。

(2) 令和7年度事業計画について

中央図書館から令和6年度の予算の状況について、資料3に基づき説明した。事業計画について、資料4に基づき各館から説明した。

〈質疑応答〉

委員：中高生向け事業が少ないと感じた。図書館ホームページも中高生向けのものがない。そのあたりを発展させて頂きたいと思う。

事務局：川越駅東口図書館においては「私の本棚へようこそ」という事業を行っているが、仰るとおり、中高生の感性を活かす事業が少ない。今年度はこども未来部の「少年の翼事業」で、どんな図書館だったら来てみたいと思うか、参加する中学生にディスカッションをしてもらおう機会がある。そこで得られた意見をもとに少しずつでも事業を開拓していきたい。

会長：中高生が学校外でどのように学びを得るかは図書館に限らず全体的な課題である。他組織との情報共有を行い、学校外での学びについて活動を充実させて頂きたい。

委員：社会教育委員としての立場からも、高齢者に対してはオンラインではない方が有効だと感じている。また、高齢者も一人で読み進める方やそうでもない方など、様々な方がいらっしゃるので、施設の方との協力を進めて頂きたい。

事務局：他団体との協力ということか。

委員：具体的にはデイケア施設や高齢者住宅で、高齢者のことをよく理解している施設の職員に対して、図書館でどんなことができるのか、どんな本があ

議 事 の 経 過

るか等、積極的に情報交換をしていくのがよいと考える。施設の職員に対する働きかけがないと、高齢者の利用に結びつかない。

事務局：外部との情報共有という点では、庁内で連携して他課の事業に関する本の展示などを行っているが、連携の範囲が庁内に収まっており、デイケア等他機関との連携は進んでいないため、今後検討しながら進めていきたい。

会長：小中学校等の教育機関であればアプローチしやすいが、高齢者施設は民間運営の所が多い。そうした所の職員にも図書館で行っていることを情報提供し、施設利用者に利用を促すようアプローチするのは非常にいいことだと思う。

委員：今年の春に高階図書館で用意された紙に自分でスタンプを捺せるイベントがあったが、これはどの事業になるのか。また、事業報告や事業計画に載っているものは大々的な事業ばかりだが、載っていないようなものでも各図書館で工夫があると良いと思った。細かい取組みでも子どもは喜んでくれるということを伝えたい。

事務局：スタンプの事業は事業計画の全館共催の部分にある「こどもとしょかんまつりスタンプラリー」が該当する。

委員：こどもがすごく喜んでいたが、意外と期間が短くて1つしか行けず終わってしまった。できればもう少し期間が長いと嬉しいと思った。

事務局：「子ども読書の日」に合わせたので、期間は4月23日から5月29日に設定したが、御意見を踏まえて時期や期間について検討したい。

会長：細かい取組みがなかなか出てこないことについて、色々仕事があつて難しいかもしれないが、図書館のスタッフと利用者が、取組みについて簡単に聞けるような雰囲気を作って頂けるとよいと思う。

委員：予算の状況について、他の自治体でもそうだが資料費は減らしやすい。また、物価上昇に伴い本に関しても単価が上がっているのも、購買力が下がっている。一方で、図書館が揃えなければならない大活字本やりんごの棚に入れるような様々な資料や、電子書籍は高額である。事業報告書を見ると、コロナ禍以降、来館者は確実に増えているが貸出は下がっている。図書館にとって資料は第一の経営資源で、とても重要なものである。教育委員会や図書館の職員は予算の折衝をすることが恐らく苦手だと思う。しかし、この物価高の中で危機感を持って折衝していかないと、図書館自体の魅力が失われてしまう。古い本ばかりで新しいサービスに対応できなくなってしまうという危機感が、日本国内の図書館で持たれているところだと思う。様々なメディアが出てきていて、何が必要でどのような需要があるのかということ踏まえ、蔵書の構築計画について再度考える時期に来ているのではないかと。例えば、かつて図書館にとって障害者の方というのは目の見えない方や耳の聞こえない方という風にかかなり限定されていたが、今はそうではない。ディスレクシアや外国の方々が利用できるようなコレクションを「塊」として作らないと利用は伸びない。資料費の下がる幅をなんとかして抑え

議 事 の 経 過

て頂きたい。

もう1点、川越は駅前に沢山外国人がおり、一大観光地であると認識しているが、この観光資源を活かした関係するサービスは行っていないのか。

会長：蔵書のことについて、委員の皆様にご賛同頂けるようでしたら、この協議会として、予算が削られているということは非常に憂慮しているということが共有されたということを議事録にも残し、予算確保に繋げて頂くことにしていきたいと思うが、御賛同頂けますでしょうか。(一同、拍手)

事務局：昨年度の要求時には全庁的な傾向から予算を削減しないところはないというような状況もあり、下がってしまった。また、今年は、市長の交代により、年度当初予算に関しては骨格予算のみで、6月の補正予算で各課に新市長の意向を反映した肉付け予算措置がなされる、というような流れがあった。図書館では、大規模工事とシステム更新を控えているため、それらを補正予算の計上とした。また、6月議会では、図書費について一般質問があった。

観光に特化したものとして図書館で何か取り組んでいるかというお尋ねになると、直結するものとしてはない。川越駅東口図書館は、クラッセ川越の中に国際交流センターがあり外国籍の方が利用される施設ではあるので、多言語お話し会を昨年度実施したが、外国人向けとしてではなく、また、日本人の観光客に向けた取り組みは特にないので、今後、研究しながら取り組みたい。

会長：川越市全体の方針として、川越をアピールしていく取り組みが必要だと感じている。周りの人たちが注目してない部分に外から注目が集まり、大きな反響が得られる現象が様々な所で起きているが、例えば図書館であれば、そうしたことと結びつくような古い資料をデジタル化して公開し、アピールするなどできるのではないか。周りの人たちにとっては陳腐化しているようなものが、外から見るとすごいという視点で利用できるものがあるのではないか。

委員：システム更新については大変期待している。検索の中で、雑誌などは目次まで検索項目に入るのか、他の市町村だと入っているところもあるので気になっている。川越駅東口図書館のシステムの使い方教室はとてもいい視点だと思う。

会長：検索の仕方のコツなどを添えてみると、使いやすくなるかもしれない。

(3) 川越市立図書館運営方針について

(非公開)

(4) 第四次川越市子ども読書活動推進計画の改定について

(非公開)

議 事 の 経 過

(5) その他

今後のスケジュールについて

事務局：本日頂いた事業報告や事業計画に関する御意見を踏まえて、運営方針及び推進計画の案を作成し、9月中旬頃に委員の皆様にお届けし、予め御確認頂いた上で10月上旬に第2回協議会を開催したい。詳細な日程については後日お知らせする。

2階ガラスケース展示について

事務局：2025年は川越の地に図書館が誕生して110年となるため、2階のガラスケースで関連資料の展示を行っている。お時間があればお立ち寄り頂きたい。

〈質疑応答〉なし